

8:16 イスラエルの王アハブの子ヨラムの第五年、ヨシャファテがまだユダの王であったとき、ユダの王ヨシャファテの子ヨラムが王として治めるようになった。

8:17 彼は三十二歳で王となり、エルサレムで八年間、王であった。

8:18 彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻だったからである。彼は【主】の目に悪であることを行った。

8:19 しかし、【主】はそのしもべダビデに免じて、ユダを滅ぼすことを望まれなかった。主はダビデとその子孫に常にともしびを与えると彼に約束されたからである。

8:20 ヨラムの時代に、エドムが背いてユダの支配から脱し、自分たちの上に王を立てた。

8:21 ヨラムは、すべての戦車を率いてツァイルへ渡って行き、夜襲を試みて、彼を包囲していたエドムと戦車隊長たちを討った。ところが、ヨラムの兵たちは自分たちの天幕に逃げ帰った。

8:22 エドムは背いてユダの支配から脱した。今日もそうである。リブナもそのときに背こうとした。

8:23 ヨラムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

8:24 ヨラムは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の子アハズヤが代わって王となった。

8:25 イスラエルの王アハブの子ヨラムの第十二年に、ユダの王ヨラムの子アハズヤが王となった。

8:26 アハズヤは二十二歳で王となり、エルサレムで一年間、王であった。彼の母の名はアタルヤといい、イスラエルの王オムリの孫娘であった。

8:27 彼はアハブの家の道に歩み、アハブの家に倣って【主】の目の前に悪であることを行った。彼自身、アハブ家の婿だったからである。

8:28 彼はアハブの子ヨラムとともに、アラムの王ハザエルと戦うため、ラモテ・ギルアデに行った。アラム人はヨラムを討った。

8:29 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにラマでアラム人に負わされた傷を癒やすため、イズレエルに帰った。ユダの王ヨラムの子アハズヤは、アハブの子ヨラムが弱っていたので、彼を見舞いにイズレエルに下って行った。

ユダではヨシャパテの次にヨラムが王となり、その次にアハズヤが王となりました。またイスラエルではアハブ王の後ヨラム王（ユダのヨラム王とは別人）が王となりました。

これらの王たちに共通しているのは、配偶者と親からの影響です。「アハブの娘が彼の妻であったからである。彼は【主】の目の前に悪を行った」、「8:27 彼はアハブの家の道に歩み、アハブの家にならって【主】の目の前に悪を行った。彼自身アハブ家の婿になっていたからである。」などのように、親から娘へ、妻から夫へと不信仰が連鎖しているのがわかります。

子どもは親の姿を見て、影響されながら大人になります。争いの多い家庭、不信仰・不忠実な親からは、そのような子どもが育ちます。程度の差こそあれ、誰でもへりくだって、主の再創造のわざによって新しい家庭づくりをする必要があります。

これから結婚する人は、今から主に忠実な者となって、祝福に満ちた結婚へと導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

